様式３

学校番号 71

令和5年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立三池工業高等学校（全日制課程）

自己評価

学校運営計画(4月)

学校運営方針	平和的な国家や社会を形成するため、真理と正義を愛し豊かな心を持ち、たくましく生きる心身と共に健康な工業技術者を育成する。		評価（総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
【成果】 ・基本的生活習慣（皆勤の増加）及び授業規律の確立 ・専門性の高い資格取得の増加及びジュニアマイスターの実績 ・学校行事等の実施による生徒会活動の活性化 ・ものづくりを中心とした地域貢献活動の実施 ・教育相談の充実と関係機関との連携による個に応じた対応の実施 ・企業や大学等の情報収集と的確な指導による進路指導の充実 【課題】 ・１人１台端末によるの活用によるアクティブラーニングの視点に立った授業改善の推進 ・育成したい資質・能力に基づいた観点別学習評価の充実による授業における指導・評価の改善 ・学校行事の実施形態を工夫し、所属感・連帯感を深める生徒会活動における主体的活動の推進 ・いじめ問題の未然防止、早期発見、早期対応のための組織的体制の構築 ・「ものづくり」教育、知的財産教育、資格取得をとおした職業教育の充実 ・キャリアパスポート、進路指導ガイダンス、インターンシップ等の充実によるキャリア教育の推進	1　キャリア教育の充実。	「生徒一人一人の多様な進路実現」に向けたカリキュラムの展開を行い、就職だけでなく公務員や大学進学等への進路指導体制の充実を図る。多様な生徒の可能性を伸ばす指導を充実させることで、生徒一人一人の多様な進路に応じた教育を行う。また、大学等との接続についても対応を行う。	
	2　ものづくりや知財教育を中心とした「三エブランド化」の推進。	課題研究や実習を中心とした「ものづくり」や知財教育をとおした地域貢献を推進するとともに、「三エならでは」の活動を行う。地域や社会の健全で持続的な発展を担う人材を育成するため、SDGsの推進やワンヘルス教育及びボランティア活動、ユネスコスクール活動等を充実させる。	
	3　授業規律の確立と授業技術を高め、「人を育てる授業」を展開する。	「鍛ほめ福岡メソッド」の実践を推進し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた「アクティブラーニング」を行い、探求心の向上を行う。 最先端科学技術の進展・グローバル化・産業構造変化等に伴い、必要とされる専門知識・技術も変化及び高度化しているため、教師自らが自己研鑽に励み、ICTを用いた授業づくり、実践学習を通じた学習意欲の向上と維持に努める。そのためには、生徒に「自覚努力」「自学自習」の精神を活かし、専門的な技術および知識の定着を行い、多様な課題に対応できる課題解決能力を育成することが重要であり、「課題研究」等の自主的な学習活動をより一層充実させる。	
	4　ICTを活用した新たな学習スタイルの確立を図る。	生徒一人1台端末及び通信ネットワーク等のICT環境を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。生徒一人一人の資質・能力を一層確実に育成する教育活動及び教育DXの実現を目指す。	
	5　修学支援を迅速に進める。	「チーム三エ」として、遅刻や欠席を繰り返す生徒の適切な指導法を協議するとともに、関係機関と連携し生徒情報を職員会議で適宜報告し組織的対応につなげる。 また、担任及びクラス付で学期初めの二者面談や学期終わりの三者面談をとおして生徒理解に努め、生徒の心の変化を見逃さない。なお、「知恩感謝」の念を持ち、いじめや暴力のない安心安全な学校づくりに努める。	
	6　組織的な道徳教育の展開。	道徳的実践力を高めるため、人としての在り方・生き方を身につける道徳教育を展開する。 「凡事徹底」を図り、当たり前のことを当たり前にやるのではなく、当たり前のことを人には真似できないほど一生懸命やる態度を涵養する。	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）				次年度の主な課題
教務部	教務課	ＩＣＴを活用した授業改善の推進	主体的・対話的で深い学びによる「アクティブラーニング」の視点にたったＩＣＴを効果的に活用した授業改善を図る。					
			生徒の授業アンケートや職員のルーブリック評価を基にした、新たな学びプロジェクトに積極的に取り組む。					
			観点別評価を示したシラバスの作成と学習内容の理解、資質・能力の向上を図る。					
		基礎学力の向上と転退学者の減少	学習アプリ等を活用した、基礎学力の向上を図る。					
			「授業規律について」の取組みを啓発し規律の定着を図る。					
			生活アンケートの活用や関係部署と連携し、転退学者の減少を図る。					
		考査・検定の円滑な実施と資格取得の啓発	定期考査の計画と実施を円滑に行い、教室の整備、監督業務の徹底を図り、公正の確保に努める。					
			検定試験の計画と実施を円滑に行い、取得状況の把握を行う。					
			資格取得を啓発し、ジュニアマイスター表彰者数１００名以上を目指す。					
	図書課	図書館利用を通して、知に親しむ生徒の育成	朝の１０分間読書に継続して取り組ませ、読書に親しむ雰囲気を醸成することで、知的好奇心を育てる。					
			図書委員会活動をサポートし、各種研修会等への積極的な参加を促す。					
			学習活動に必要な蔵書等の資料を充実させ、公共図書館との相互貸借を活用しレファレンスサービス（資料提供）や広報に努め、また社会の出来事や各種記念日などに対応した図書の展示など、レイアウトやイベントの工夫を行い、生徒の利用促進を図る。					
		芸術鑑賞を通して、豊かな情操を育む生徒の育成	芸術に対して各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身につけるようにする。					
			ステージ鑑賞をすることで、芸術の良さや美しさを深く味わい、生徒自身が創造的な表現をできるようにする。					
			生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、よりよい生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培わせる。					
	情報課	ＩＣＴを用いた授業の推進のための環境整備	全職員が必要な情報を即座に抽出できるようなデータベースを３つ以上作成する。					
			１人１台端末に関する運用方針・規約を随時更新し、生徒・教員にルールの遵守を促す。					
			生徒１人１台端末・教員用端末等と学習アプリの活用法の研修を行い授業改善を図る。					
		校内ネットワークの維持・管理	サーバ内の整理・整頓や、連絡黒板・職員用メール・Google for Education等のさらなる活用など、ネットワークの使いやすい環境を整える。					
			校務用パソコンやタブレット端末等の保守・管理を円滑に進め、快適なネットワーク環境を維持する。					
			情報課の連絡を徹底するため、セキュリティ委員会等を組織再編し、構築を図る。					
生徒育成部	生徒指導課	生徒指導 ・自己指導能力の育成 ・いじめ防止への取組の推進	あらゆる機会を通して生徒に対し、日常生活の様々な場面で適切な判断のもと実行できる力を育成する。					
			生徒に規範意識を持たせるために、立ち止まって挨拶する３Ｓ（speed、stop、smile）を徹底する。					
			いじめ問題について、全職員共通理解のもと未然防止・早期発見・早期対応に組織的な取組を推進する。					
		交通指導 ・交通安全マナーの徹底 ・保険加入の義務化	登下校指導を計画的に行い、加害者にも被害者にもならないために、交通安全マナーの指導を徹底する。					
			自転車通学者・バイク通学者に対して、安全点検やヘルメット着用とともに安全運転の指導を実施する。					
			本校に乗り入れする自転車や通学に利用するバイクにおいては、任意保険の加入率１００％を図る。					
		生徒会活動 ・学校行事の工夫・清掃の徹底 ・地域貢献活動の推進	リーダー研修等を通し、学校行事の実施形態を工夫し、所属感・連帯感を深める生徒会活動を推進する。					
			清掃委員会を中心に、定期的に強化週間・重点区域を設け、校内環境整備の徹底を図る。					
			ボランティア活動やユネスコスクール活動等を通して、持続可能な開発のための地域貢献活動を推進する。					
	保健課	健康な心身の育成及び自己管理ができる生徒の育成	全職員による教育相談を年３回実施し、生徒理解を深める。					
			保健室来室の生徒状況を把握し，自己管理に向けたアドバイスや適切な指導・支援を行う。					
			知りえた情報を基に、各担任やＳＣ、各関係機関と連携を取り、十分なサポートが取れる体制を整える。					
		生徒保健委員会の活性化	各種検診での円滑なサポートができるようにするとともに、校内での環境衛生面の啓発を随時行う。					
			委員会活動の充実を図り，リーダーとしての資質育成と学校衛生面への貢献を目指す。					
			保健だよりをできるだけ発刊し、感染予防の啓発や季節に応じた注意喚起ができるようにする。					
		保健指導、安全指導の充実	ＱＲコードを利用した健康観察システムを活用し、生徒が自らの健康について自己管理できるように指導を行う。					
			薬物乱用防止講演会・いのちの講演会などの各種講演会を実施し、正しい知識と強い意志、いのちの大切さや他人を尊重する考えを身につけさせる。					
			救急救命講習会を行い、部活動等における緊急時の対応が誰でも取れるような体制を整える。					

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は A：適切である B：概ね適切である C：やや適切である D：不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）				次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
進路指導部	進路指導課	進路希望の実現	進路指導部で得た情報を担任や科主任等と共有する。また、生徒が主体的に進路調べ活動をするガイダンスを設定する。							
			オープンキャンパスや公務員専門学校短期講習への参加を促し、早い時期から進路実現に向けたより効果的な対策をするよう意識の向上を図る。							
			就職選考試験一次募集での合格率９５％（昨年度）以上を目指す。							
		企業が求める人財の育成	進路希望を実現するために、求められる人物像や必要なスキル等を考えさせ、将来像を具体化させる。							
			望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技術（学園生・技術職レベルを目標）を身につけさせる。							
			工場見学・職場見学等を十分に生かし、生徒が自分の適性に合った企業を選択できる能力を養成する。							
		進路実現に向けた学力の向上	課外は自学の補完であることを明確にして運営する。公務員課外や進学課外を充実させ、合格者増を目指す。							
			就職問題集やＳＰＩ等の参考書を自学しやすいものにして、就職模試にも事前勉強をして取り組めるよう時期や内容を設定する。							
			生涯学び続けるための勉強の仕方も意識させ、自学をさせる。また、進学希望者には早い時期に入試内容を確認させる。							
	キャリア教育推進課	キャリア発達の促進	キャリアパスポートを学校行事でも定期的に振り返らせ活用させる方策を工夫する。							
			キャリア教育計画に基づくＨＲ活動の体系化のさらなる充実を図り、１年次からキャリア教育を促進する。							
			インターンシップ等を工夫することにより、職業理解や自己理解を深めさせる。							
		社会人を見据えた振舞い等の育成	社会常識を培わせ、「心のこもった挨拶」「感謝する心」「整理・整頓する習慣」を育成する。							
			環境や目的に応じて自分の気持ちを相手に伝える力（コミュニケーション能力）の向上を図る。							
			学習アプリを活用して、自身の進路目標に沿った自学に励ませる。							
企画部	企画課	他分掌との連携	他分掌と連携を強化し、業務の最適化を図る。							
			早めに計画・立案することで、事前準備を徹底し、各行事を円滑に実施する。							
			各行事において事後アンケートを実施し、次年度以降の工夫や改善に繋げる。							
		ＰＴＡ活動の活性化	ＰＴＡ活動を通して、保護者と学校との連携を深め効果的な教育活動に繋げる。							
			各行事等において、多くの保護者に関わっていただけるように早期の案内を徹底する。							
			各委員会の活動の推進・支援を行い、活性化を図る。							
		魅力ある体験入学の実施	教務部と連携を図りながら本校の魅力を伝えられるような体験入学を企画する。							
			生徒会と連携を図りながら生徒による学校紹介など受験生増加に繋げるための取組みを実施する。							
			今までの体験入学の内容を見直し、時代に合わせた体験内容にできるよう各学科と連携を図る。							
	広報課	地域や中学校へ向けた情報の発信	ホームページ･インスタグラム･安心安全メールなどのSNS媒体による発信の充実を図る。							
			学校案内パンフレット・ＰＴＡ新聞などのレベルを上げる。							
			ＦＭたんと・イオンモールや大牟田市のイベントなどでの広報活動への積極的に参加する。							
		中学校から依頼を受けた説明会の充実	２学期を中心とした中学３年生への本校説明会の充実を図る。							
			３学期を中心とした１、２年生への進路学習会の充実を図る。							
			出前授業、学校見学会などでの説明会について、動画などを充実させより伝わりやすいプレゼンを提供する。							
		体験入学、進路相談事業などの成功	体験入学に関して、リーフレット・職員訪問計画など関連分掌と連携し成功させる。							
			体験入学参加者増員のために本校生訪問などを折り込み関係学年と協力して成果を上げる。							
			進路相談事業をはじめとする外部での進路相談会について、展示物などでの後方支援を充実させる。							
	研修課	研究授業や公開授業等の計画と実施	２０回以上の研究授業の計画と実施を行い、ＩＣＴの効果的な活用法について検討していく。							
			研究授業合評会において、ＫＪ法を導入し研究授業実施者への授業改善提案を明確にする。							
			保護者に向けた授業参観や地域に向けた公開授業など生徒の授業に向かう姿を見ていただく機会を設定する。							
		校内研修の充実と校外研修の参加促進	基本研修を受講する職員への校内での研修を充実させるために、各分掌と連動し組織的な運営を行う。							
			校内研修においては、学期に１回程度は外部講師やＩＣＴ支援員等の専門的な知見での研修会を計画する。							
			キャリアアップ講座等校外研修への積極的な参加の声掛けと、実施後の学校への還元する機会を設ける。							
		研究紀要の完成	本校の特色ある教育活動を掲載できるよう各分掌や各科との連携を図る。							
			新たな学びプロジェクトやワンヘルス教育等の取組みを全職員で推進し、学校の活性化に繋げていく。							
			他の高校や中学校、地域に向けて研究紀要を発信するための手立てを考え、本校の教育活動の広報に努める。							
1学年		教科指導 学習習慣の確立と意欲的に学ぶ姿勢の習慣化	教室等の校内の美化を徹底させ、授業規律を維持して落ち着いて学習に励める環境をつくる。							
			授業等で学びへの意欲を高め、自主的に学習に取り組む態度を育てることで自宅学習の習慣を確立させ、成績改善者を出さない。							
			各科と連携して、計算技術検定・情報技術検定の全員合格とその他資格取得に積極的に挑戦させる。							
		生徒指導 自己指導能力及び他者を尊重し他者と協働し共に高め合う力	身だしなみ、挨拶の励行など３年後の社会人としてのあるべき姿を意識させる。							
			５分前行動を心掛け、時間を守るよう意識づけを行う。							
			一人一人が個性を発揮しながら他者を尊重し、他者と協働する環境をつくる。							
		進路指導 進路意識の高揚とキャリア教育の推進	生徒が学科選択をする際、進路に対する希望まで考慮できるよう各学科との連携を図り選科指導を行う。							
			進路指導部との連携を深め、３年間を見通した計画的な進路学習を行うことで、進路意識の向上を図る。							
			適切な時期に適切な情報を与え、進路に関する選択と目標設定を支援する。							
		特別活動 学校行事や部活動への積極的な参加及びともに支え合う態度を養う	１年間を通して、全生徒に1人1リーダー（役割）を与えることで、協調性や目主性をに身につけさせ達成感を味わわせる。							
			部活動加入率９０％以上を目指し、積極的に声掛けを行いながら学校全体の活性化を図る。							
			人権教育、ＨＲ・学年集会など様々な機会をとらえて自己を見つめさせ「認め合う」姿勢を養う。							
2学年		教科指導 学ぶ姿勢と確かな学力を身に付ける	基礎・基本の徹底による学力基盤を確立し、教科担当者と連携を図りながら学習習慣・方法を定着させ、成績改善を要する者０名を目指す。							
			皆勤者１００名以上を目指し、欠席遅刻が多い生徒に対し面談を行い、家庭と連携して原因追究と改善を図る。							
			資格取得を推進し、意欲的に学ぶ姿勢を身につける。（予習→授業→復習の学習スタイル、家庭学習の習慣化）							
		生徒指導 「個を高めあえる集団」・「集団を高められる個」を育てる	豊かな人間関係の形成を通し、リーダーシップとフォロワーシップの相互関係により、互いに成長できる生徒の育成を目指す。							
			人前で話す機会を多く作り、人の話を聞いて理解し、自分の考えを分かりやすく伝える技術を向上させる。							
			学年リーダーを育成し、生徒自身が指揮をとり、学年の連絡系統を機能させて、自律的な集団を育成する。							
		進路指導 進路実現に向け、粘り強く取り組む姿勢を築く	進路決定に関する資料、方法、情報の適切な提供に努めて、個に応じた進路指導を実践する。							
			工場見学やインターンシップ等の事前事後指導を充実させ、職業観を醸成する。							
			より高い志（進路目標）を持ち、その実現に向かって意欲的に努力する態度を身に付けさせる。							
		特別活動 学校行事・ホームルーム活動・部活動の活性化	自分の役割を意識し、学校や学級に貢献できる活動を推進し、新しい時代に主体的・積極的に対応し、社会に貢献できる人材を目指す。							
			学校行事（修学旅行、インターンシップ）や地域貢献の活動を通して、課題解決能力やコミュニケーション能力の涵養を目指す。							
			部活動の中心メンバーとして活躍し、入部率８５％以上を目指し、学校全体の活性化に寄与する生徒を育成する。							

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
3学年	教科指導	学ぶことの意味を理解し、学び方を身につけ、意欲的に学ぶ姿勢を身につけさせるとともに、家庭での学習習慣の定着を目指す。						
	学びに向かう姿勢の向上と基礎学力向上	担任と教科担当者との情報交換を密に行い、一人ひとりに確かな学力を定着させ、成績改善を要する者を０にする。						
		各種テストや模試の結果を適切に振り返り改善を重ねることで、自分自身で学びを継続できる力を身につけさせる。						
	生徒指導	生徒会を中心に、生徒と教師がともに協力し合える学校行事になるようにしていく。						
	学校行事の成功と円滑な人間関係の構築	生徒と教師との信頼関係の確立に重点をおき、誰にでも適切な対応ができる生徒育成に力を入れる。						
		生徒同士が協力しやすい雰囲気作りに重点を置き、教員の適切なサポートの下、適切な人間関係が構築できる体制を整える。						
	進路指導	将来を見据えた進路指導を進めていくため、社会人としての常識やマナーを身につけさせる生徒指導の側面とドッキングした指導を行う。						
	社会性の涵養と進路実現に向けた取組の実践	生徒一人ひとりが納得の行く進路決定となるよう生徒・保護者と情報交換を密に行い、適切な指導を実践する。						
		学校や社会の問題を自分の事として捉え、よりよい社会の一員として必要な知識・スキルを身につけさせる。						
	特別活動	最高学年として、各クラス・各学年・各科の生徒が連携し合える体制づくりに努める。						
	学校行事や部活動の活性化	伝統の継承と新たな取り組みの適切な融合を図り、学校行事や部活動の活性化に繋がるよう生徒とともに計画を進める。						
		学級や学校に対して課題意識を持ち、よりよい改善に向けた行動ができる生徒を育成する。						
電気科	学習意欲の向上と基礎学力の確実な定着	授業規律を確立・維持し、授業をしっかり受ける姿勢と心構えを養う。						
		実習などの集合時間（５分前行動）を厳守する。遅刻・欠席をなくす。（皆勤率　７０％以上を目指す）						
		生徒一人ひとりに学習意欲を持たせる指導を行う。日々の授業を通して基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図り、学力向上を目指す。						
	資格取得を奨励し、生徒の技術力向上と向学心の育成	資格取得を通して、向学心を高め、基礎的な専門的知識や技能を身につけさせる。						
		電気科として目標とする資格試験を精選し試験日程に合わせた補講計画を組む。（昨年度:電気工事士　９２％合格）						
		ものづくりを通して調査研究や考えることの大切さに気づかせるとともに創造力や技術力を身につけさせる。						
	自己指導能力を身につけさせ、社会の変化に対応できる進路指導	インターンシップなど教育活動をを通して系統的な職業観・勤労観の育成を図る。						
		様々な機会を通して進路に関する情報を提供し、第一希望の進路先に決定できるように指導する。						
		面接指導・学力指導・進路ガイダンスを早い時期から行い、実践的な能力を身につけさせる。						
電子機械科	進路実現を目指した資格取得の推進	資格･検定試験へ生徒自らが主体的にチャレンジし、ジュニアマイスター認定３０名以上を目指す。						
		専門性の高い知識と技術の深化･統合化を行い、学ぶ意欲や基礎学力の向上を図る。						
		進路実現を目指し、１年次よりキャリア教育を推進し、努力し続ける姿勢を養う。						
	ものづくりを通した学習指導	ものづくりコンテスト・溶接競技会の上位入賞及び技能検定の取得を目指し、技術力の向上や知識の定着を図る。						
		実習等のあらゆる機会において、安全教育における６Ｓ（整理・整頓・清掃・清潔・作法・安全）の徹底を図る。						
		ＩＣＴ機器の活用を積極的に行い、聴いて・視て・対話して学ぶことで、学習意欲の向上を図る。						
	あらゆる機会を捉えての生徒指導	基本的生活習慣を確立し、遅刻・欠席を減らす等、日常の中で指導し、皆勤者８割以上を目指す。						
		礼儀正しく元気な挨拶、服装・頭髪を整えることで、三池工業生としての規範意識を身につけさせる。						
		科・系職員間での情報交換を密にし、生徒理解に努め、積極的で横断的な生徒指導を行う。						
情報電子科	規範意識の醸成に向けた指導	規則正しい生活習慣と、予防を含めた毎日の体調管理を意識させ、皆勤率８５％を目指す。						
		時間の厳守・身だしなみ・清掃・立ち止まり挨拶・言葉使い等の徹底した指導を行う。						
		科会議において生徒に関する情報共有を徹底し、組織的に規範を意識づける指導を行う。						
	基礎学力の向上と目標の進路実現	定期的な面談に加えて適宜面談を行い、生徒個々に合った学習法を提示し、基礎学力の向上を図る。						
		明確な進路目標を持たせ、キャリア教育を通して目標実現のための計画と取組みを実行させる。						
		資格取得を通して目標を設定するとともに、ＩＣＴ機器により効果的かつ計画的に学習する態度を醸成する。						
	企業が求める人財の育成	企業情報収集能力の育成を行い、企業が求める人材をよく理解させ、第一希望進路１００％を目指す。						
		インターンシップや工場見学等を通して、勤労観や社会人の心構えを養う。						
		工技基、実習、課題研究等で基礎的・基本的な技術や技能を身につけさせ、技能検定全員合格を目指す。						
土木科	規範意識の醸成	元気よくさわやかな挨拶を行う習慣を日ごろから指導していく。						
		教室やロッカーの整理や荷物の管理を行い環境整備に努める。						
		遅刻、欠席、早退を減らし皆勤者８０％を実現させる。						
	土木技術者の育成	各種資格試験の指導を科全体で指導し技術者としての誇りと進路意識の向上を図る。						
		高度熟練者による実習指導を活用により最新技術に触れ進路目標の明確化を推進する。						
		ものづくりコンテスト（測量部門）上位入賞を目指す。						
	ものづくりを通した人材育成	体験教室などのものづくりにより思いやりを持った技術者としての人材育成を図る。						
		地域と協力したイベントに参加し、市域社会の発展を目指した人材の育成を図る。						
		課題研究や実習を通して協調性や行動力、探究心を高める社会人としての基礎力の育成を図る。						
工業化学科	自立できる生徒の育成	基本的生活習慣を確実に身に着けさせ、遅刻・欠席を減らし、皆勤率８０％以上を目指す。						
		頭髪服装や挨拶、言葉遣い、時間厳守などルールやマナーを守ることができる態度を育成する。						
		一人一人が支えられていることを知り、感謝の気持ちを行動で表すことができる態度を育成する。						
	確かな学力の育成と進路実現に向けたキャリア教育の充実	生徒が課題を理解し、問題解決に向けて計画的に取り組み基礎学力の向上を目指す。						
		授業・実習・課題研究の改善に積極的に取り組み、主体的・対話的で深い学びが実現できる環境を整える。						
		面談・面接指導等、生徒の希望と適性に応じた進路指導を充実し、進路実現（第一希望１００％）を目指す。						
	創作工夫と主体的な行動のできる化学技術者の育成	課題研究や実習を通して化学の面白さを体験し、中学生や地域に発信する機会を設け、生徒の自尊感情が高揚することを目指す。						
		インターンシップや工場見学、高度熟練者による指導を通して専門性の向上を図り、自ら将来を切り開いていく力を育てる。						
		国家資格の合格者増加やものづくりコンテスト優勝に向けて、科の職員全員で指導する。						

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

評価項目以外のものに関する意見